豊川市議会傍聴記 ㊦

地方政治クリエイト 伊藤 秀昭

何のために何を主張したいのか

■保育の受け皿拡大

「子育てするなら豊川市」の実現には、働きながらの子育てができる環境づくりが重要であるとして、特に兄弟姉妹が別々の保育園に通う問題を取り上げたのは冨田潤氏（とよかわ未来）。

別々の保育園に通園している世帯が40世帯で、うち39世帯が下の子どもが3歳未満児と大きく異なる。

安間氏は「豊川市の場合、無料または高齢者料金の設定がされている施設がほとんどである。とるべき優先度は何かを問題提起していた。

■文化会館建設

佐藤郁恵氏（共産）は、日立跡地に新文化会館が予定され、現在の文化会館が廃止の方向に向いていることから、「新たな建設は必要最小限のホール等にとどめ、音羽・御津などの現施設を使った方が維持管理費も安く済み、住民の満足度も高くなる」と再考を迫った。

市民部長は「建築後40年を迎え、多方面の老朽化は顕著であり、市内に1カ所は1000人規模のホールは必要。また、中規模以下のホールは既に更新時期を過ぎつつあり、新たな場所に集約して、既存施設を廃止することは有効な方法である」と答えた。

佐藤氏は、市民に情報を公開して選択肢を示し、市民の意見を反映させるよう要請した。

■土地開発公社

浦野隼次氏（とよかわ未来）は「豊川市土地開発公社による、日立事業所跡地や名大研究所用地の取得などで、同公社の債務保証額の50億円を超えることになっている市に対し、土地開発公社の角度からチェックしたい」質問だった。

◇

3日間の豊川市議会の一般質問で、しばしば「この議員は何のためにこのテーマを取り上げたのだろうか」という疑問に出くわす。

各種の基本計画などを見てほしい。①現状と課題②施策の方針③具体的な目標④評価と課題、すなわちPDCAが繰り返されています。

その場合、一番大切なP＝プランは議会でいえば「取り上げるテーマです」。

①今、何を議論しなければならないか②なぜこのテーマを取り上げたのか③今回の議論でどこまでの答弁を引き出すのか④そのためにどのような展開をするのか、この作業で一般質問は9割方決まります。逆に言えば、この深掘りがないと中身がないプランの質問になるということ。

5月に東海日日新聞社を訪れた就任直後の山本和美議長は「議員の質を高めて、行政にしっかりモノが言える議会にならないといけない」と話されていたが、いよいよそのことが問われていることを肝に銘じてほしい。